

囲いやま森の会 活動記録

2008.1.17 野口 功

日 時： 2008.1.15 (火) 10時～ 天気： 晴

記録・写真： 山田幸子

観察記録

新春第2回目の観察記録です。ゆっくり、ゆっくりと自然観察を楽しみたいのですが、楽しい時間は本当にアッという間に過ぎてしまいます。

ところで、谷川俊太郎さんは「朝のリレー」の中で、(カムチャッカの若者がキリンの夢を見ている時、メキシコの娘は朝もやの中でバスを待っている。ぼくらは朝をリレーするのだ……)と書いています。私たちの里山活動は、誰からバトンを受け、誰と共に歩み、誰にそのバトンを渡していくのでしょうか？ささやかな活動でも、そのつながりを思うと、なんだか楽しいものになっていきますね。森の楽しいリレーが、一日でも長く続いていることを祈りながら…

- 1) 囲いや山の入口広場のそばで、モグラ塚が見られます。いつも早く参加される増田さんが、前回見つけました。モグラは、シャベルの様な手でトンネルを掘り、餌のミズや昆虫を探します。その時余った土を鼻で押し出したものが、モグラ塚です。モグラが顔を出して、深呼吸している訳ではないようです。また、モグラの棲家の近くには、必ずある特定のキノコがあるそうです。キノコに詳しい山口さんによると、ナガエノスギタケというキノコだそうです。囲いやまのモグラ塚にも、ナガエノスギタケが生えているかもしれませんね。是非見たいものです。
- 2) スエヒロタケは、新春にふさわしい、おめでたい名前のキノコです。やはり、入口広場の角で見ることが出来ます。キノコの裏側を見ると、名前のつけられた理由がわかります。このキノコの胞子が人間の肺に着生して、たちの悪い病気を発症するとの噂があるようですが、眞偽の程は如何でしょうか？
- 3) 野生のエノキタケは、店頭で見かけるものとは違った姿をしています。囲いやまでは、第一広場から散策通路に出るそばで、みつけました。写真をみても同じものとは思えません。エノキタケを、光のないところで栽培してもやし状にしたのが、普段購入しているエノキです。
- 4) ヤマコウバシは、クスノキ科の落葉低木です。葉を揉んだり枝を折ると、クスノキ科の特徴の香気がします。冬になっても葉を落とさず、写真のように赤褐色の葉が枝についたまま冬越しをし、春になってから葉を落とします。雌雄異株で、日本には雄株はなく、雌株だけで結実します。大きな冬芽が開くと、若葉の根元に小さい若葉色の花がでてきます。春先、囲いやまで、是非花を見たいものです。
- 5) クロモジも同じクスノキ科です。ヤマコウバシと同じように、葉や枝に良い香りがあります。この枝は、高級つまようじの原料となることで、有名です。囲いやまのクロモジも大きく育ってほしいものです。12月の観察記録のクロモジの冬芽は、池田さんが写してくださいました。
- 6) 小嶋さん・佐竹さん・土田さん・西澤さん・福山さんの女性探検隊で、自然観察をしました。アズマネザサやノイバラをもろともせず、森の奥の方を歩きました。マユミの実が青空に映えて、すばらしい眺めでした。冬景色の中で、ノイバラやマンリョウやカラスウリなどの赤い実が、健気についているのが印象的でした。

開花植物

木本： ヤツデ・キヅタなど

実のついている植物： ネズミモチ・アオキ・ノイバラ・マユミ・シユロ・マサキ・カラスウリ・マンリョウ・ツルウメモドキ・ヤブコウジなど

鳥： シジュウカラ・コゲラ・ヒヨドリ・アオジ・エナガなど

キノコ： スエヒロタケ・カワラタケ・エノキタケ・ハチノスタケ・アラゲキクラゲ・キツネノチャブクロなど

囲いやまの森

2008.1.15(火) 山田幸子
女性探検隊 6名の自然観察会
森の楽しいリレーが続くように!

